

⑤ 内容

ア. 研究主題 社会教育委員の性格と役割

- ・公民館の整備充実と活動の振興方策
- ・勤労青年教育の振興方策について
- ・成人教育の振興方策について
- ・社会教育の総合的推進について

イ. 講演 変ぼうする社会における社会教育のあり方

- ⑥ 効果 社会教育委員が社会教育の現状を把握し委員の役割が理解され、社会教育計画、総合的推進など積極的な動きがみられる。

4 総合社会教育研究協議会

- ① 目的 社会教育行政と社会教育に関連する行政機関団体が相互の理解を深め、緊密な連けいと協力のもとにそれぞれの行なう教育活動を総合的に進めるための方策について研究協議し、社会教育の振興および地域社会の発展に寄与する。

- ② 主催 福島県教育委員会、福島県、喜多方市教育委員会、喜多方市、郡山市教育委員会、郡山市、原町市教育委員会、原町市。

- ③ 期日、会場、参加者数

期 日	会 場	参加者数
12月10～11日	喜多方市公民館	107名
〃 12～13日	郡山市公民館	131名
〃 14～15日	原町市公民館	101名

- ④ 講師 文部省社会教育官 諸井三郎  
 〃 高橋真照  
 福島大学 堀口知明

- ⑤ 参加者 市町村役場、教育委員会関係者、公民館関係者、公明選挙、貯蓄推進、青少年問題協議会、新生活運動、商工会議所、商工会関係者。

- ⑥ 内容 「社会教育と社会教育に関連ある一般行政機関団体の行なう教育活動を総合的に進めてゆくための具体的方策について」を研究主題とし、勤労青少年教

育の振興についてとくに農村青年の教育体制、都市の年少青年教育体制について研究し、また、成人教育の振興方策として、社会教育活動と公明選挙常時啓発運動との関係、さらに生活の合理化運動との関連について研究協議した。

- ⑦ 効果 現在行なわれている社会教育の具体的内容をとらえ、それぞれの関連ある機関、団体が相互に理解し協力し合うことによってはじめて社会教育を総合的に進めていく必要性と可能性が認識され社会教育の今後のあり方について大きな示唆を与え、意義深いものがあった。

5 社会教育研究地区

- ① 目的 社会教育の総合計画を樹立するため、基本的な地域課題について調査研究し、その実践の方途を考究することにより総合社会教育を推進するための拠点として社会教育の研究地区を指定した。指定地区の熱意と協力によって相当の効果をあげてきた。

- ② 指定地区

管 内	研 究 地 区	管 内	研 究 地 区
信 夫 伊 達 安 達 安 積	吾 妻 国 見 本 宮 喜 久 喜 田	村 町 町 村 村 村	町 村 町 村 町 村
岩 瀬 南 会 北 会 耶 麻	須 賀 田 島 会 津 喜 多	川 市 市 市 市 市 方 市	田 村 石 城 双 葉 相 馬
		船 引 石 来 浪 江 原 町	町 市 町 市 町 市 町 市

6 みどり号の巡回

みどり号のもつ機能を生かし県下市町村を巡回して社会教育上の問題点について研究協議し市町村社会教育の振興、充実をはかるため16管内、市町村を巡回し社会教育研究地区、文部省委嘱婦人学級、県実験青年、婦人学級訪問、各地区の社会教育研究協議会に参加するなど市町村の総合社会教育推進に努めてきた。

巡 回 期 日	管 内	巡 回 市 町 村
5.16～5.19	東 白 川	矢祭町、棚倉町、塙町、鮫川村
5.22～5.25	石 白 会	浅川町、古殿町、玉川村、大東村
6.5～6.8	伊 白 会	梁川町、保原町、国見町、霊山町
6.27～6.30	西 白 会	白河市、東村、表郷村、西郷村
7.17～7.21	南 白 会	館岩村、只見町、南郷村、檜枝岐村
7.25～7.28	安 白 会	安積町、田村町、熱海町、三穂田村
8.22～8.25	北 白 会	猪苗代町、磐梯町、河東村、北会津村、会津若松市
9.4～9.8	両 白 会	湯川村、会津坂下町、会津高田町、金山町
9.24～9.26	耶 白 会	高郷村、山都町、西会津町、喜多方市
9.27～10.5	田 白 会	中田村、船引町、大越町、滝根町
10.22～10.25	安 白 会	東和町、岩代町、白沢村、本宮町
11.20～11.23	岩 白 会	岩瀬村、長沼町、天栄村、須賀川市
12.10～12.14	双 白 会	大熊町、川内村、檜葉町、久ノ浜町
12.19～12.22	信 白 会	川俣町、飯坂町、吾妻町、松川町
1.8～1.12	相 白 会	新地村、相馬市、鹿島町、大館村
2.19～2.23	石 白 会	勿来市、磐城市、四倉町、三和村、川前村